

余剰ワクチンと接種希望者

自動仲介で無駄なく

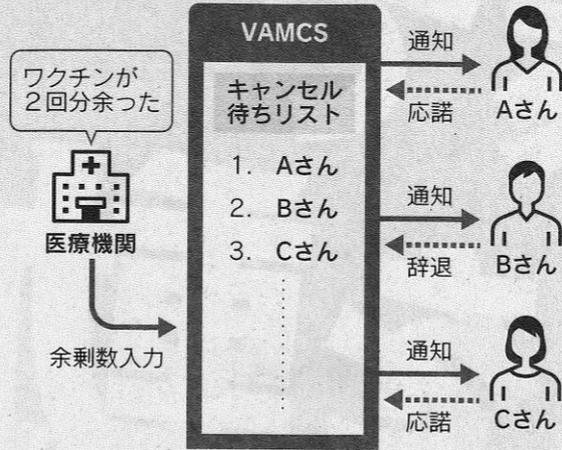
医療系システム開発のアルカディア・システムズ(大阪市)は、新型コロナウイルスのワクチン接種を実施する医療機関向けに、キャンセルが出た場合、自動的に希望者とマッチングしてスムーズに接種できるシステムを拡販する。5日からまず福岡東はばしらクリニック(福岡市東区)などに導入し、2021年中に全国で1000施設への拡販をめざす。ワクチンの供給不足が続くなか、余剰ワクチンの発生を減らし、接種率向上につなげる。

システム開発のアルカディア まず福岡・沖縄の病院に

福岡東はばしらクリニックや下地診療所(沖縄県宮古島市)、大阪市内のクリニックなどの医療機関が5日から、アルカディアの「ワクチン余剰マッチングシステム(VAMCS)」を導入する。福岡東はばしらクリニックは、AMCSを導入する。AMCSは、希望する人は医療機関のホームページを通じてVAMCSにアクセスし、氏名や生年月日、メールアドレス、自治体から送

付された接種番号などを入力する。接種希望日は平日か土日祝のどちらかを選ぶ。医療機関はワクチンの種類や余ったワクチンの数などの情報をVAMCSに登録する。例えば2回分の余剰が出たと登録すると、VAMCSが自動的にキャンセル待ちの上位2人に通知のメールを送る。メールを受け取った待機者は、VAMCSにアクセスし、接種日や受付終了時間を確認。15分以内に「応諾」のボタンを押せばマッチングが成立する仕組み。

ワクチン余剰マッチングシステム(VAMCS)の仕組み



「キャンセル」のボタンを押し、VAMCSは次の待機順位の希望者に通知することを繰り返す。医療機関側はマッチング状況を画面で確認でき、辞退した待機者をキャンセル

待ちリストに戻したり、連絡のないまま来院しなかった人をリストから削除したりできる。通知して複数回応諾しなかった待機者は、キャンセル待ちリストから削除する。システムの利用料は月2200円。

アルカディアはVAMCS開発に先駆け、複数の医療機関がワクチンの過不足の情報を共有するシステムを開発し、福岡東はばしらクリニックなど福岡市東区内の88の医療機関に無料で提供している。ワクチンが不足した場合、ワクチンが余っている医療機関に連絡し調整する。ただ当日急なキャンセルが出た場合などに、接種希望者が簡単には見つからないことが課題だった。同クリニックの杉本膳寿マネージャ

「は「キャンセルが1人分でも、すぐに代わりを探すのは大変」と話す。アルカディアはVAMCSを拡販するため、8月は無料で導入できるようにする。導入先が増えれば、パソコンやスマートフォン画面の地図上に自宅や職場の周辺の医療機関を表示し、キャンセル待ち希望者は待機者数を確認できる。1人あたり5つの医療機関までキャンセル待ちリストに登録可能だ。

自治体でも、接種希望者が予約の空き状況をサイトで見られるようにしたり、キャンセル待ち希望者をサイトで募集し、急なキャンセルが出た場合に電話で知らせたりする仕組みがある。ただ複数の医療機関にキャンセル待ちを登録して自動的

にマッチングするシステムは珍しい。同社は1988年設立で、医療機関向けに医療機器を管理するシステムや透視業務を支援するシステムなどを開発・販売している。今後、現役世代への接種が進むなか、インキュベーション企画部の和田知也執行役員は「高齢者向け接種に比べ、仕事などで当日キャンセルが増える可能性がある」と指摘する。余剰ワクチンを効率的に減らすことができるマッチングシステムのニーズは高いとみている。(小田浩晴)